

# 穂肥診断&ウンカ防除情報について

平成30年8月3日

佐城農業指導者連絡協議会

## ○穂肥施用について(各品種共通事項)

- ・穂肥施用時(幼穂形成始期)は湛水し、その後の間断灌水では、地固めと根に空気を送るため落水期間をとる。地が緩い場合は、落水期間をやや長めにとる。
- ・いもち病が発生している圃場への穂肥施用は、発生を助長するため施用を控える。

## 1. 夢しずく穂肥施用について

- ・穂肥施用時期をむかえている。

【平坦部での夢しずく穂肥診断基準】

幼穂形成始期の草丈	葉色		施用時期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分kg/10a	BB602kg/10a
73cm以下	3.0以下	34以下	20~22日	1mm	2.0	12.5
	3.0~3.5	34~38	18~20日	2mm	1.5	9.4
	3.6以上	39以上	施用しない			
73~79cm	3.0~3.5	34~38	18~20日	2mm	1.0	6.3
	3.6以上	39以上	施用しない			
80cm以上	施用しない					

※草丈は、幼穂の伸長程度により幼穂形成期(1mm)を基点に、前後1日あたり1cm増減する。

※出穂前15日以降の穂肥は、玄米タンパク質含有率を上昇させるので施用しない。

## 2. ヒノヒカリ穂肥施用について

- ・まもなく、幼穂形成期となり、8月上旬頃に穂肥施用になると思われる。

【ヒノヒカリ穂肥診断基準】

幼穂形成始期の草丈	幼穂形成始期の葉色		施用時期		穂肥施用量
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分kg/10a
80cm以下	3.0以下	34以下	20~24日	1~2mm	3.0
	3.0~3.3	35~38	18~20日	3~5mm	3.0
	3.5~3.8	39~40	16~18日	5~15mm	2.0
	3.8以上	41以上	—	15~30mm	1.0以下
80cm以上	3.0~3.3	35~38	18~20日	3~5mm	2.0
	3.5~3.8	39~40	16~18日	5~15mm	1.5
	3.8以上	41以上	—	15~30mm	1.0以下

※草丈は、幼穂の伸長程度により幼穂形成始期(幼穂1mm)を基点に前後1日あたり1cm増減する。

※お盆以降の穂肥は、玄米タンパク値を上昇させるので施用しない。

## 3. さがびより穂肥施用について

- ・「さがびより」では、8月中旬頃に穂肥施用になると思われる。
- ・近年、穂肥無施用による低収が明らかになっている(図参照)。きっちり穂肥を施用する。
- ・施用時期は幼穂長5~10mmが基準。
- ・止葉は伸び易い特性を持っており、伸びすぎると伏せて稔実が悪くなりやすい。  
(穂肥N成分で1kg増える毎に止葉は2.5cm伸長する)

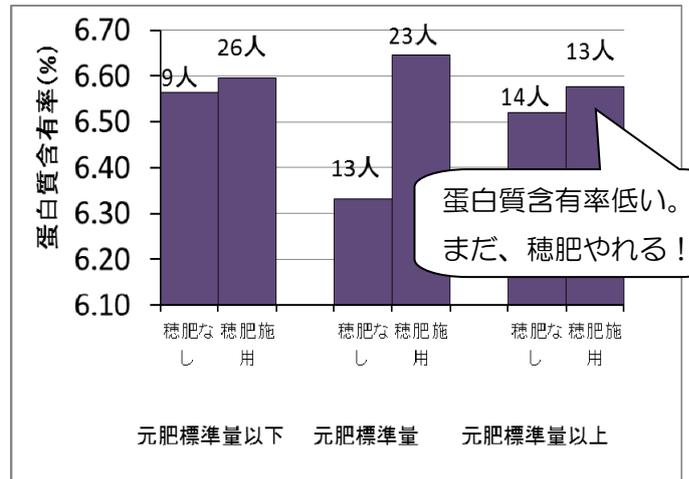
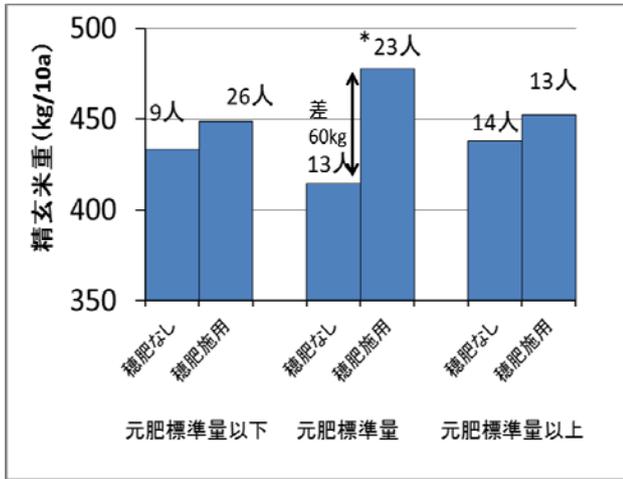


図 施肥体系と収量（さがびより）

今年は猛暑となっており、今後も高温が続くと考えられます。穂肥をきっちり施用し、増収を図るために H29 年からさがびよりの診断基準の見直しを行っています

★新基準 H29～★ さがびより診断基準

幼穂形成始期 (幼穂長1mm) の草丈	葉 色		施用時期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 (kg/10a)	BB602 (kg/10a)
80cm以下	3.5以下	38以下	18~20日	5mm	2.5	15.6
	3.7	38~40	18日	10mm	2.0	12.5
	3.8	40~41	16日	15mm	1.0	6.3
	3.8以上	42以上	施用しない			
80cm以上	3.8以下	39以下	16~18日	10~15mm	1.5	9.4
	3.8以上	40以上	施用しない			

さがびより旧診断基準（※中山間地域参考）

幼穂形成始期 (幼穂長1mm) の草丈	葉 色		施用時期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 (kg/10a)	BB602 (kg/10a)
75cm以下	2.5以下	33以下	18~20日	5mm	2.5	15.6
	3.0	33~37	18日	10mm	2.0	12.5
	3.5	37~38	16日	15mm	1.0	6.3
	3.8以上	39以上	施用しない			
75~80cm	3.0以下	36以下	16~18日	10~15mm	1.5	9.4
	3.0以上	37以上	施用しない			
80cm以上	施用しない					

「さがびより」の生育ステージ											←--- 穂肥時期の目安 ---→						
出穂前日数	-25	-24	-23	-22	-21	-20	-19	-18	-17	-16	-15						出穂期
幼穂形成始期及び幼穂形成始期からの日数						4日後	6日後	1週間									
幼穂長			1mm	2mm		5mm	10mm	15mm	20mm								
標準的な草丈 (cm)	72~75		草丈の指標は、1cm/2日減じて使用する														
備考	適期																
注1) 「 」印は、幼穂形成始期を示す																	

#### 4. ヒヨクモチ穂肥施用について

##### ヒヨクモチの穂肥施肥基準（分施タイプ）

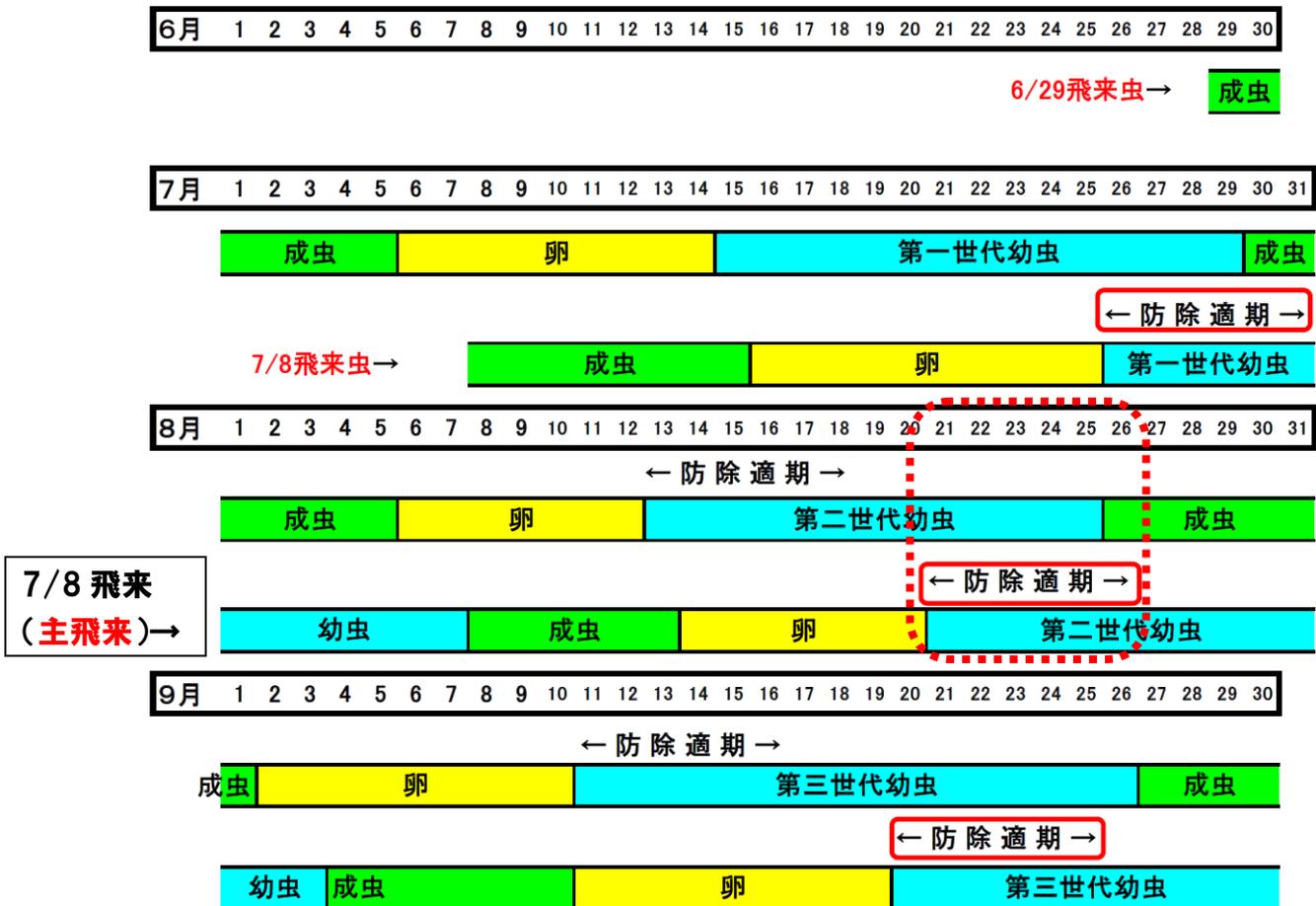
	穂肥Ⅰ(kg/10a)	穂肥Ⅱ(kg/10a)	実肥(kg/10a)
施用時期の目安	8月15～18日頃 (幼穂形成始期幼穂長1ミリ頃)	8月24～28日 (穂肥Ⅰの10日後)	穂揃期 (9月10日～13日頃)
LPBB804	40	—	—
BB602	25	10	10

※全量元肥施用田（一発くん）においても穂肥Ⅰ～Ⅱの時期に SPAD で40を切る場合には、窒素成分で2kg/10a程度（BB602 10～20 kg/10a）施用する。

→今年は**高温年が予想されおり**、生育も旺盛なため、穂肥を施用し、充実を向上しましょう。

#### 5. トビイロウンカ対策情報 7/31 現在の発生予想パターン

(平成30年7月25日、佐賀県農業技術防除センター作成)



- ・7月8日に主飛来と見られる飛来が認められたため、防除は7月8日の飛来波に重点を置く。
- ・防除時期は、表のとおり、8月20～26日に実施する。
- ・必ず各地域及び圃場ごとの発生状況を確認する。(各地域及び圃場ごとに発生量が異なるため)
- ・防除の際は、湛水するとともに、株元まで薬剤が十分かかるよう、ていねいに散布する。

※最新の飛来状況については、農業技術防除センターのホームページから確認してください。

佐賀県庁 HP ホーム > 分類から探す > しごと・産業 > 農林水産業 > 営農支援情報・関連施設 > 病害虫データ > 病害虫発生予察情報

<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00322110/index.html>